

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科					
科目名称	園芸療法実習				授業形態	実習				
科目コード	218520	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	林 典生							ICT活 用	○	
授業概要	<p>医療・保健・福祉・生涯学習の現場で、園芸療法・福祉の実践を行ってきた経験に基づいて、幅広い教養と専門性を持ち、一緒に問題解決を行える人材を育てるための実習指導を行う。実習において学ぶ内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 園芸療法とはガーデニング活動も含む園芸活動でかかわる人のいいところを見つけ、自信につなげていくと共に、みんなで支えあう社会づくりを行うことが目的であること。 2. その目的を達成するためには、子どもから高齢者までしょうがいの有無を問わずに活動実践を行うことが必要であり、対象となる人々の理解やそれを取り巻く環境および支える制度等を理解した上で、実践できる。 3. これらの人に関わることを理解した上で、ガーデニング活動も含む園芸活動を行う上で注意すべき点等も含めた活動の流れを理解した上で、活動打ち合わせ・準備から片付け・振り返りまで実施できる。 4. 実際にガーデニング活動も含めた園芸活動を地域社会で実践して、参加者からの反応や受講生同士の振り返りの中で、客観的に自己評価できる。 									
関連する科目	園芸療法論（履修済みか履修中であることが望ましい） 先に園芸療法実習を履修した場合は園芸療法論を必ず履修すること									
授業の進め方 と方法	<p>授業開始前に毎回のレポートを提出した後、授業開始後10分間は授業開始前の小テストを実施する。その後授業開始前の小テスト、毎回のレポートならびに前回の授業終了後の小テストの解説を授業内容と関連付けて行う。授業を実施し、授業終了10分前に次回提出するレポート課題を説明し、授業終了後の小テストを実施する。 場合により、オンライン形式も含めて地域にある団体・機関との協働に基づき、グループワーク企画・実施を行い、最終的には提案を行うこともある。 前期試験期間中に事前説明会を行いますので、必ず出席すること。</p>									
授業計画 【第1回】	コミュニケーション演習 1回目 受講生向けオリエンテーション、コミュニケーションスキルに関する演習 園芸療法実習受講に際し注意すべき点を理解するとともに、自己開示する。									
授業計画 【第2回】	コミュニケーション演習 2回目 コンフリクトのある事例に関するグループ演習 多種多様な立場の見方を体験することで、お互いの意見を尊重しあうことを体験する。									
授業計画 【第3回】	コミュニケーション演習 3回目 当事者のライフストーリー事例に基づくグループ演習 本人の思いを聴き取り、本人の思いを丁寧にくみ取ることを習得する。									
授業計画 【第4回】	ケアマネジメント演習 1回目 ケアマネジメントの流れの説明・意見交換 ケアマネジメントの流れについて説明し、事例に基づいて考える。									
授業計画 【第5回】	ケアマネジメント演習 2回目 アセスメント・実施計画作成演習、チームアプローチ・モニタリング演習 事例を用いて、アセスメント・支援計画作成およびチームアプローチ・モニタリングを体験する。									
授業計画 【第6回】	社会資源開発演習 1回目 企画シート作成説明、企画シート作成演習 地域の社会資源を調査し、これらの社会資源を活用した企画を考える。									
授業計画 【第7回】	社会資源開発演習 2回目 企画シート発表・意見交換、意見交換に基づき企画シート完成 前回の企画作成に続き発表を行った後に、意見交換を行い企画を仕上げる。									
授業計画 【第8回】	リスクマネジメント演習 1回目 活動現場事例に基づいた苦情受付・解決演習 事例を用いて、リスクマネジメント予防及び事後対応する流れを習得する。									
授業計画 【第9回】	リスクマネジメント演習 2回目 避難所運営ゲーム体験、体験に基づく意見交換 避難所運営ゲームを体験して、コミュニケーションとマネジメントの大切さを習得する。									
授業計画 【第10回】	活動プログラム体験（栽培系・クラフト系）栽培系プログラム体験、クラフト系プログラム体験 栽培系プログラムとクラフト系プログラムを体験・意見交換後、プログラム作成に関する動機付けを行う。									
授業計画 【第11回】	年間活動プログラム作成演習 課題説明、課題解決に向けた年間プログラム・活動場所プラン作成 事例を用いて、年間活動計画作成を行う。									

授業計画【第12回】	年間活動プログラム作成・発表演習 年間プログラム・活動場所プラン発表・意見交換 作成した年間活動計画を作成・意見交換を行い、年間活動計画を完成させる。
授業計画【第13回】	活動プログラム企画・立案・発表 個別活動プラン（栽培系・クラフト系）作成・意見交換 完成させた年間プログラムの中から、栽培・クラフト系プログラムを選択・作成・意見交換を行う。
授業計画【第14回】	活動プログラム準備・実践・振り返り（栽培系）作成したプランに基づき準備・実施・意見交換 作成した栽培系プログラムの準備・実践を行った後に、意見交換を行う。
授業計画【第15回】	活動プログラム準備・実践・振り返り（クラフト系）作成したプランに基づき準備・実施・意見交換 作成した栽培系プログラムの準備・実践を行った後に、意見交換を行う。
授業の到達目標	子どもから高齢者まで誰もがいの有無を問わず誰もがガーデニング活動も含む園芸活動でかかわる人のいいところを見つけ、自信につなげていくと共に、みんなで支えあう社会づくりを行うことを理解した上で、実践できる。【教養・専門分野の知識・理解】【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	毎回の授業終了時に事前に課題を提出するので、まとめたレポートを作成する(目安時間は30分以内)。
授業時間外学習【復習】	授業終了後に授業内容に関する課題を提出するので、それを調査し考えたことをまとめたレポートを作成する(目安時間は30分以内)。
課題に対するフィードバック	毎回のワークショップの発言内容等は実施中にコメントや板書等で説明し、レポートは各授業中に解説を実施する。また、最終レポートはレポート作成終了後に解説を実施する。
評価方法・基準	ワークショップ発言内容・参加態度（授業中に作成する記録メモ等に基づき評価、記録メモ等の提出がない場合は各回毎0点となる。） 15回×2点 計30点、 毎回のレポート 15回×3点 計 45点（授業開始前後に作成・提出）、 事前課題（授業開始前に提示、第1回目前半の授業時に発表・意見交換の上、提出）計10点、 プログラム企画・実践・振り返りに関する最終レポート（授業中に作成、第15回目後半の授業時に発表・意見交換の上、提出） 計15点、 合計100点で成績評価を行う。 なお、遅刻・早退や激しい私語等授業態度が悪い場合は本人に伝えた上で減点する。
テキスト	園芸療法実習で使用するプリントを配布し、それに基づき授業を実施する。
参考書	Sharon Simson, Martha Straus Horticulture as Therapy: Principles and Practice CRC Press 1998 (都城キャンパス図書館に所蔵あり) 公益社団法人日本社会福祉士会編著 基礎研修テキスト上・下巻 公益社団法人日本社会福祉士会 2021 藤原茂・山口県園芸療法研究会 生活行為向上力の見つけ方（-作業・環境・園芸療法の理論とプログラム） 青海社 2015 日本レクリエーション協会編 楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 日本レクリエーション協会 2017 日本レクリエーション協会編 楽しさの追求を支える理論と支援の方法 理論に根差した福祉レクリエーション支援の方法 日本レクリエーション協会 2013 日本レクリエーション協会編 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施 根拠をもったプログラムや行事の計画立案や運営の方法 日本レクリエーション協会 2013 日本レクリエーション協会編 楽しさの追求を支えるための介入技術 見通しと根拠をもって個人やグループを支える方法 日本レクリエーション協会 2013 牛谷正人・肥後祥治・福島龍三郎編 強度行動障害のある人の「暮らし」を支える 中央法規 2020 冠地情著 アイスブレイク&ワークショップ 講談社 2019 他の参考文献等は授業中に紹介する。
備考	近畿圏内の複数の医療・保健・福祉・生涯学習の現場での勤務（社会福祉士・精神保健福祉士と中学校・高等学校教員免許に基づいて）やボランティア活動のなかで園芸療法・福祉の実践を行ってきた。現在も都城地区周辺を中心に実践や人材育成を行っており、それに基づいて授業内容に反映させる。 この授業は受講生個人及び受講生同士チームを組んで、様々な現場で生じている課題を解決するために、コミュニケーションをとりながら意見交換を行い、受講生自身で準備したものを他の受講生等に教える活動も含めて、その過程及び成果物の発表を行う。 そのため、事前に資料を配布して、第1回目の授業開始時に事前課題の報告を行ったうえで提出する。 履修登録した受講生はユニバーサルパスポートを通じて、資料の受け取りに必ず来る。 対面形式でもオンライン形式でも欠席・遅刻・早退は減点対象になるので、体調を整えて出席すること。